



復刊第158号
題字 吉岡弥生

巻頭言

副会長
橋川ふさ子

依然としてしめつけの厳しい医療情勢のなかで、日本女医学会は現況の改善を求めて努力をしております。なかでも男女共同参画社会の実現をめざして模索しながら検討を重ねてきました。

このたび、橋本会長、加藤副会長を中心にして「女性医師の働く環境の改善と支援体制の整備拡充を求めて」の主旨で三つの要旨を軸にした要望書を作りました。それを総理、官房長官、各省庁や日本医師会長始め医科大学等に提出しました。今後徐々にでも良い反応が現われますことを期待いたします。

日本女医学会は男女相互互助の社会環境づくりを目指しておりますが、医学研究や臨床現場において現状としてなお男女平等とは言いがたい差があります。女医は妊娠、出産、育児、家族的責任、その上医師として

の活動があります。医療に従事する若い女性が年々増えつつあります現在、固定的性別分割分業の意識を取り除き仕事と家庭をスムーズに両立出来るようにするためには、男女共同責任であるという意識をもつことです。相手への優しさ、思いやりがあれば必ずかしこいことではないと思えます。

ジェンダー意識が改革されて女性医師が抵抗なく働ける環境整備が実現すれば、近い将来において女性医療の黄金時代の到来を期待できるでしょう。

最近少子化対策委員会の委員に女医会から一名の委員が参加しました。少子化は重大な問題です。安心して子供を産み育てる環境が整えられることが急がれます。女性の立場から少子化高齢化社会への適切な提言が必要と思われまます。しかし一方では

本格的に人口減少社会に対応すべきで、豊かな人口減少社会を構築することが、少子化高齢化の進んだ日本の国際貢献になるという見方もあります。

また日医未来医師会ビジョン委員会では、未来に女性医師比率の増加をみて女性委員を増加すると発表しました。このように少しずつ女性の参加の必要が認められてきました。未来の医療、未来の医師、未来の医師会のあるべき姿について、三十代〜四十代の若い医師を中心に医師会運営に積極的に討議を深め方向づけられるでしょう。

さてこのたび、日本医学会総会期間中に、日本女医学会の後援で学会場の東京国際フォーラムの中に託児室を開設しました。初めての試みでございます。利用者はのべ二二名にのほりました。

日本女医学会では会員増強の方法の一つとして全国を10のブロックに分け、ブロックごとに集まり、親睦を深めながら忌憚のない意見の交換をします。その第一回を横浜で開催しました。熱心に討論しまして、非常に有意義でございました。今後も各地で開く予定でございますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

第44回日本女医会定時総会が5月22日に札幌市のロイトン札幌で開催されます。北海道で総会が行われますのは女医会創立以来初めてでございます。北海道支部長及び諸先生方のご熱意とご努力によるものと感謝

もくじ

巻頭言……………橋川ふさ子 (1)

〈学術講演会・今こそ日本女医学会に期待すること〉

学術講演会を担当して……………平敷 淳子 (2)

今こそ日本女医学会に期待すること……………鮫島 美子 (2)

女性のリーダージュシップ……………柴田 洋子 (2)

今こそ日本女医学会に期待すること……………大内 廣子 (3)

〈一般公開講演会を千葉で開催〉

公開講演会を開催して……………山本みどり (3)

公開講演会要旨……………秋葉 則子 (4)

長崎支部講演会を開催して……………石井 伸子 (4)

環境整備小委員会報告……………加藤 竺子 (5)

東京都医師会について……………青井 禮子 (6)

日医少子化対策委員会の報告……………石原 幸子 (7)

日本女医会百周年記念事業準備始まる……………橋本 葉子 (7)

吉岡彌生記念館を訪ねて……………竹内 静香 (8)

「大正区ふたば会」のこと……………肥塚 典子 (8)

日本女医会に入会させていただいて……………対馬ルリ子 (9)

大原一枝先生の近刊「集塵抄」を読んで……………二村英美江 (9)

〈支部だより〉「一つの試み」……………斎藤 歌子 (10)

日本女医会総会を担当するにあたり……………斯波 憲子 (10)

・新医学用語辞典……………(6)

・日本女医会ゴルフ懇親会のお誘い……………(7)

・第44回日本女医会定時総会のご案内……………(11)

・理事会議事録(1月)……………(12)

・会員動静……………(12)

・編集後記……………(12)

いたします。前夜祭には渡辺淳一先生のお話があります。また公開講演会には岸玲子先生の立派な講演がありますので楽しみにしております。

学術講演会 今こそ日本女医会に期待すること

時：99年2月27日(土)
於：東京女子医科大学
中央校舎5階講義室

学術講演会を担当して

学術部 平敷 淳子

重みをプラスに展開できる団体として

今こそ日本女医会に期待すること

関西医科大学同窓会会長
鮫島 美子

近年、医学部の女子学生の数は増加の一途をたどっています。「女医」は新しい職業集団として注目されています。

わが国は戦後最大の不況にあえぎ、行政・金融・教育改革が叫ばれていますが、閉塞という長いトンネルの出口はなかなか見えてきません。

昨年日本医師会が「増加する女医をどうに医師会活動に取り入れていくか」といういわば諮問をなげかけ、はつきりした形ではないまでも答申を提出した経緯もあります。

現在高い失業率が問題になっていますが、二〇二五年ごろになると少子・高齢化でわが国の労働人口が不足し、国内総生産がへり、国の活力が失われると予測されます。

今後とも女医会に一層のご支援をお願い申しあげます。次第でございます。

大勢の女医の先頭に立ちバイオニアとして女医の道を切り開いてくださった講師の先生がたの知恵をお借りし、これからの考えの糧とさせていただきたいと企画した次第です。

イムで働く女性が増えると、その分保険料収入が増えて年金財政の改善が見込まれるという試算もあります。

女性リーダーシップ

東邦大学名誉理事長
柴田 洋子

一〇〇年の歴史を有し専門職の団体である日本女医会、女性医師のみならず、広く女性の職業人を含めて問題を提起することが、広く社会の共感をえるのではないのでしょうか。

過日、日本女医会より講演者としてお招きいただき、光栄に存じました。

場には置かれれば立派に遂行されるはず。女性がリーダーになりにくい一例として、全国の医育機関の教育スタッフについて調べました。

環境の整備としては、妊娠、出産、保育、介護対策です。妊娠、出産に

今や日本でも女性の活力について社会が注目しており、「男女共同参画」という大目標を掲げ、国家としても総理府を中心に動いています。

女性リーダーシップをすすめること。女性リーダーシップをすすめること。女性リーダーシップをすすめること。

で総数一〇二人(うち教授三〇人)でありました。ちなみに前記の七八校のうち全女性教授は、五三人で一校平均は〇・七人といったところ

私は今まで看護学校の校長を七年、医学部長を六年、そして理事長を六年と管理職をつとめてまいりました

私は今まで看護学校の校長を七年、医学部長を六年、そして理事長を六年と管理職をつとめてまいりました

一般公開講演会を千葉で開催

平成11年2月11日

公開講演会を開催して

千葉支部 山本 みどり

喜び勇んで帰ってまいりました。

それより四カ月、役員・会員で会場・宣伝また県医師会・千葉市医師会・地元千葉市その他周辺都市のご後援を得ることができました。

昨日9月28日女医会理事久田先生より平成10年度公開講座を千葉県での連絡をいただきびっくり。早速役員に連絡、ちょうど女子医大千葉県同窓会が10月4日に行われるとの由で、その日を利用、七名集合しました。

当日の講演の竹宮教授にお願いすることに全員賛成。10月14日竹宮教授及び田中教授とお会いし、楠元教授と、三先生で「健やかに楽しむ長寿社会」のテーマで、「快諾を得、

プを伸ばしてゆくこと、子どもの成長を支援して、明るい日本人を作る

今こそ日本女医会に期待すること

東京女子医科大学同窓会
(社)至誠会 会長 大内 廣子

本日は東邦大学医学部柴田洋子先生、関西医科大学鮫島美子先生と一緒に、日本女医会の先生方にお話しできることを感謝いたします。

ことも入学できる状態ですが、昭和20年頃まではこの三校の卒業生のみが女性医師となれたのです。

医会会員も第一回の国際女医会議から参加していますが、吉岡彌生先生が会長になられて、日本女医会も国際的にも活躍の場を拓かれたのだと思えます。

の心臓について専門的のことですのに、一般の方にも判りやすい親切な説明・スライドなど、また、田中先生の現代社会で問題にされている心の問題、ストレスなど、それにより身体に現われる症例、時間が足りなくなっていくらいました。

閉会してからも先生の側には順番待ちでお話を伺っていく人あり、先生もまたお疲れの所を、ゆっくり相談のつてくださいました。

東京女子医大は創立者吉岡彌生先生のご意志により、女子育成の大学として、現在も、また将来も努力されれると思ひ、またそう願っております。

一番心配したことは天候です。ところが、11日だけの悪天候で本当日が雨になりました。しかし、二〇〇名余の方が氷雨の中をお集まりくださり、質疑応答の時間も足りないうらいました。

女医会会長橋本葉子先生も出席くださり、ご挨拶をいただき、日本女医会千葉支部の面目も立ちました。

最近、女医会事務局へのお電話がよくお宅へつながらずという苦情をたくさんいただいたりしております。

女医会会長橋本葉子先生も出席くださり、ご挨拶をいただき、日本女医会千葉支部の面目も立ちました。

吉岡彌生先生は大正9年(1920)日本女医会会長になられました。

電話番号をよくたしかめて、お電話下さるようお願い致します。

群馬より丸茂先生、また石原先生、茨城・東京よりも先生方がたくさんございました。準備の日数が短かか

公開講演会要旨

千葉支部 秋葉則子

平成11年2月11日(木) 建国記念日の祭りに公開講演会を開催した。あいにくの雨、ときどき小雪という寒さに出足を心配したが、講演の題目、講師の先生の力により、約二百名の聴衆が集まり、熱心に耳を傾けてくれた。

講師の楠元雅子先生(循環器内科教授)の「心臓の話」の講演は、一、生活習慣病とは、二、心臓の仕組みと働き、三、生活習慣病としての心臓病、特に虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)について、四、虚血性心疾患の危険因子とその予防、高血圧、高脂血症、糖尿病、肥満、喫煙、ストレスなど、順をおって「ゆっくり」「いいねい」な語り方で、たいへん判りやすく心臓について説明された。心臓の解剖図、学会や厚生省の発表された数値のグラフ・イラストが使われたことも一層理解を深めた。



楠元先生の理科系の話から、次に田中朱実先生(神経精神科教授・女子医大病院副院長)の文科系の話へと移った。一、精神科からみた現代社会、二、ライフサイクルと抱える問題、三、現代社会にみる心の病、四、心身ともに健康であるためにというレジメで進められた。現代社会が抱える問題を精神科か

ら見ると、背後にある社会が見えてくる。物質的豊かさの影で豊かな心が失われていると指摘された。家族形態が変化し、一人一人が自由なライフスタイルで過ごして「らしさ」が喪失し、役割も喪失している。ストレス社会、バイオテクノロジーや機械のリズム・スピードに合わせて生きている。情報過多、高齢化、少子化などの問題もあわせもち、外界からの圧力(物理的圧力・騒音・オゾン層の破壊、生物学的圧力・花粉症・ダイオキシンなど、心理的社会的圧力・人間関係・欲・生活環境など)

長崎支部講演会を開催して

長崎支部 石井伸子

近年のめざましい女性の社会進出に合わせて、医学生に占める女子の割合や若い世代での女性の割合も高率となり、今後、医療・社会の分野における女性の果たす役割はますます重要になると思われる。しかし、女医及びそれを取り巻く環境に関しては改善すべき問題も解決されていないものが多い。このような現状と将来を見据えて、何か行動を起こそうと「長崎県女性医師の集い」と題して、講演会と懇親会を企画した。講師は、昨年NGO「国境なき医師団

(MSF)の活動に参加した岩川真由美先生(筑波大学臨床医学系専任講師・小児外科専攻)にお願いした。女性医師としての知性と感性を生かし、気負わず、力まず、親睦を図りながら女医が抱える問題や期待される役割を本音で語り合える場を共有しようと呼びかけたところ、県内から幅広い年齢層六三名が参加した。岩川先生の講演は、「いま、女医であること」と題して、一時間余り、自分の人生を振り返り、その時々のかかれ道でどう選択してきたかを率

直に話して頂いた。幼少時の父親や母親との関係、学校時代の葛藤、卒業後に小児外科の道を選んだこと、その後、女性としての結婚・出産という山を乗り越えたものの、仕事との両立・パートナーとの対等な関係を保つことの困難さから離婚を経験。幼児を抱えて、外科医という時間の不規則な仕事をどうこなしたかというよりも、壁に突き当たったら違う方向へ飛び出してみようという発想の転換。子供と二人で米国へ留学した際、働く女性のための保育所が完璧に整備され、周囲のサポートによって快適な生活であったこと。精神的にも生活面でもすでに自立できている十七歳の息子との羨ましいような親子関係。そして、昨年1月から6月の半年、父親の死をきっかけに、女医の道を選んだ原点、医療という

世界共通の技術を生かし、困っている人に貢献するという初心に帰る、MSFの活動の一環として、中国で地域の中心となる病院を再建し、二代目「はだしの医者」を集めて定期的に教育システムを確立してきた。そして、この教育システムは、現在の日本の医学教育で問題になっている臨床医をどう育てるかに非常に役に立っているのか。

歳に近くなり、NGO活動を考えられているが? 「私も離婚を経験したが...」とか、「医学生だが、仲間が集まっても、やはり食事の世話は女子がという役割分担があつて、おかしいなあと思う」という男性の発言もあつた。長崎大学医学部長の齊藤寛先生は、「これからは、一人は働き一人が家庭を守るといふ関係はおかしいし、成り立っていかないと。お互いが自立し、協力しあえる社会をつくるべきであろう。今後、女性

医師が落ち着いて仕事のできる環境を整備することによって、日本の医師団へのより多様な価値観と生活経験をもちつて医師の増加につながる。従来よりもはるかに柔軟な考え方をもち専門家集団として市民の信頼を得ることになる。さらに、このような環境整備の努力が、他の分野の女性の地位向上に直結するのではないか。」とコメントされた。

間、乳児保育、病児保育の問題、均等法改正の問題等々大変重要で幅広い多くの課題がだされた。まとめとして、働く女性医師の環境支援の一方法として、男女平等参学会時の託児サービス、その他幾つかの提案がなされた。とりあえず要望書を関係方面に提出するために原案を次回に検討する。

二、日本医学会総会期間中の託児室開設について、三、要望書案について、四、提出先について検討、総理大臣、文部、厚生、労働大臣、議員関係、大学医学部長病院長、その他関係部所。以上のような経緯で要望書をまとめ、別紙の要望書を関係方面に提出(手渡したまたは郵送)。

環境整備小委員会報告

副会長 加藤竺子

今、社会の大きな変革の時代を迎えて、日本女医学会としても、新しい時代に即した、むしろ時代をリードする活動を考えねばいけないのでは、という機運が高まっています。

卒業、国試、研修、入局、研究など一連の基礎研鑽の場合も時間的ゆとりがなく、晩婚、独身傾向も増加しているのではないかと。女医学会として、もともと若い後輩の入会を勧誘して、若い女医さんの意見を聞く機会をもつて行かねばということになり、副会長の加藤が担当で会長、副会長、各担当からの代表に加えて、外部からも若いしかりした方に入会いただき、忌憚のない意見を出して貰ったということになり、早速、環境整備小委員会の結成となりました。

委員 橋本会長、石原、加藤、橋川各副会長、鹿田、沢口、田中、松井村田、吉崎各委員、理事会以外より特別参加をお願いした、荒木葉子先生(報知新聞東京本社医務室、産業医)、対馬ルリ子先生(都立墨東病院)、早乙女智子先生(都立青山山病院)司会及びまとめ 加藤副会長

早乙女委員は欠席、二二名出席、会長挨拶、各委員の自己紹介。問題提起として、荒木委員より、働く女性の健康を考えるプロジェクトチームの経験を通して貴重な意見が出され、10月に主催されたシンポジウムの資料の提供があり、続いて対馬委員より、産婦人科医としての立場、産婦人科女性医師の有する諸問題に関するアンケート結果の資料提供、加藤委員より国立大学助教授の働く女医の勤務上の意見の紹介、引き続き自由討議にはいり各委員から活発な意見がだされ、特に保育時

二十一世紀を目前に、男女共同参画社会の実現を目指し、その推進の取り組みが進められております。国においても、男女共同参画審議会の答申を受け、男女共同参画基本法制定に向け、通常国会に審議上程の予定と伺っております。我が国は憲法で、人権の保証、個人の尊重、男女平等の理念は謳われており、人権は女性の権利でもあることは論をまたないところであります。

女性医師の働く環境の改善と支援体制の拡充を求める要望書

社団法人 日本女医学会

家庭責任と仕事を両立させるには、支援体制が充実しないと負担が重い。

平成10年11月8日 午前11時 日本女医学会会議室に於いて

要旨 広く医学教育、研究、臨床医療の場に真の男女共同参画社会の早期実現を求め、下記の事項を要望いたします。

(1)男女共同参画を理念とする医学教育、研究並びに医療体制の推進 (2)医師の職場における男女雇用機会均等法、労働基準法、育児・介護休業法等の法制度の遵守徹底 (3)女性医師の特殊性、専門性を勘案した働く環境支援体制の整備拡充

1985年「女子差別撤廃条約」を批准、1986年「男女雇用機会

均等法」の施行、1991年「育児休業法」の公布、1995年同法の改正、介護休業制度の法制化、1997年「男女共同参画審議会」の設置、「男女雇用機会均等法」の改正、「介護保険法」の公布等、労働の場における男女平等の確保と、社会を構成する最小単位としての家族に対する責任を有する男女労働者の支援のための法的整備は進められておりますが、現実問題として、男女の格差は大きく、男女平等とは言い難い現況であります。医学教育、研究、臨床医療の場に於いては、同じ国家資格を持ちながら、かならずしも男女平等、機会均等とはいえず、むしろある場合には差別的状況さえ見られます。

最近、女性医師の数は年々増加の傾向を示し、すでに二十代の医師のうち四人に一人は女性と言われ、二十一世紀にはおそらく半数を占めるのではないかと予想されております。このような時代背景にも拘わらず、現況では、若い女性医師が、職業と家庭を両立させようとする場合、結婚出産、育児などで、どうしても家庭責任の負担が女性に二重に課せられ、研究や仕事の上で暗黙の差別や格差の実態が作り出されているのは、まことに残念であります。特に出産・育児という大切な人生の役割を担う場合さえ、法に定められている最小額の休暇さえ取りがたい場合もあり、女性の健康管理の上からも由々しき問題であります。女性医師が男

性医師と同じように、能力以外の条件で差別されることなく、自己の能力を専門分野で十分に伸ばしながら、また、女性として妊娠、出産という掛け替えない特別な時期を、よりスムーズに専門職と家庭を両立させることができる環境づくりの推進は、急を要する課題と考えます。

まず、そのためには、子どもを生育させることは、男女の共同責任であると同時に、次世代を担う者の育成は社会全体の責任であるとの認識が通念化され、新しい価値観の創造による、意識の改革が望まれます。

また、女性医師の社会的、職業的使命を考えると、職業生活と出産・育児・介護を含む家庭生活を調和・両立を可能とする社会制度・支援体制の整備は必須であり、特に、産前・産後の健康管理、0歳児保育・時間延長保育・病児保育・休日保育など、働く環境支援体制の整備拡充を

はじめ、実態的にもその制度の活用が保障されなければなりません。法的に認められている育児休業、介護休業なども、組織的理解と支援体制がなければ、活用は難しく、個人の努力を超えるものがあります。

二十一世紀に向けて、医師として持続可能な発展の道を確保し、質の高い医療で国民の福祉の向上に貢献するためにも、また、国際的に活躍するためにも、女性の医師が男性と同じように機会を与えられ、自己の能力を十分に伸ばしながら、さらに大きく医学の進歩と発展に貢献できるよう、また、豊かで活力に溢れた社会づくりの貴重な人材として、さらには、温かな福祉社会の担い手として、専門職の立場で差別を受けることなく活動できる社会づくりを強く希望するものであります。

1999年3月 日
(社)日本女医会会長 橋本葉子

東京都医師会について

理事 青井 禮子

東京都医師会には多くの医師会と同じように昭和22年創設、約半世紀を経過しました。その間、保険医総辞退等重大な時局を乗り越えて都民の健康を守るために、行政と車の両輪の関係構築きつ、種々の重大な事業を行ってきました。現在の医療は

治療医学だけでは間に合わぬ生活習慣病等、疾病構造が変化してきていますので、転ばぬ先の杖としての一次予防、二次予防等行政と一体となつて、大規模に実施してゆかねばならない状況となっております。われわれは医療現場から上つて来る種々の

新医学用語辞典

【代替医療・相補医療・CAM・OAC・統合医療】

最近、代替医療・相補医療という言葉が目につくようになってきた。代替医療は「alternative medicine」の日本語訳で、二者択一という意味で、アメリカやカナダで使われている呼称である。相補医療は「complementary medicine」の日本語訳で、イギリスで使われている。両者とも、「現代の西洋医学を相補し、またはそれに替わりうる治療法の総称」である。最近ではアメリカもイギリスも両者を併せた「Complementary and Alternativ Medicine ; CAM」という言葉が使用されるようになった。アメリカのNIHでは1991年に「代替・相補医療研究室：Office of Alternative and Complementary Medicine ; OAC」を設置し、1992年には代替・相補医療に関する報告書を作成、国費でこれらの科学的研究と報告を援助する活動を始めた。代替・相補医療は人体の自然治癒能力を重視して治療に利用する一方、心の問題の治療法から精神神経免疫学 (psycho-neuro-immunology) や精神腫瘍学 (psycho-oncology) 等を進歩させている。

日本では1998年10月16日に「日本代替・相補・伝統医療連合会議」が発足した。設立趣旨の中では「今や西洋医学を含めた、これらの代替・相補・伝統医学のすぐれたものを統合し、新に第三の医学ともいふべき「統合医療」を創造する時期にきている」ことを強調している。

日医少子化対策委員会の報告

副会長 石原 幸子

- ・東京都リハビリテーション病院管理運営
- ・地域医療研修推進事業(かかりつけ医向)
- ・介護保険導入環境整備事業(ケアマネージャー養成、介護療養施設整備)

- ・情報化社会対応事業(インターネット、イントラネット開設)
- ・生涯教育、学術振興に関する事業(医学研究費)
- ・医事紛争処理事業、等々であります。

- ・婚外子を受入れる社会を
- ・育児支援のマスメディアの積極的参加等

担増を日本医師会総合政策研究機構が試算し総額二二、〇〇〇億円と算出した。詳細はまた次回で報告致します。

- ④記念講演のテーマ及び演者は2001年になってから決定する。
- ⑤担当内容及び担当理事
- ◆記念式典・祝賀会関係…澤口理事を委員長とし、庶務及び渉外部担当理事
- ◆100年史関係…大坪理事を委員長とし、広報担当理事
- ◆募金関係…青井理事を委員長とし、会計部及び事業部担当理事
- ◆ロゴマーク・記念品関係…事業部担当理事
- ◆記念講演関係…平敷理事を委員長とし、学術部担当理事
- ◆国際女医会関係…平敷 National Coordinator

会長 橋本 葉子

第一回の会合は11月16日開かれ、自己紹介およびフリートークキングの形で各自発言した。

その後のおの意見を書き出して、小委員会がこれをまとめ、2月17日の第2回会合時再検討の予定である。

第1回会合討議内容の要旨(概略)

- 一、行政の行うべき対応
- ・保育制度の改革
- ・時代のニーズに定める対応(病児保育、二十四時間延長保育、保育料の改正等)
- ・税制、年金制度の改正
- ・子供の数に応じた減税、年金の増額等
- ・医療制度上の配慮
- ・小児医療(十五歳まで)の無料化
- ・出産一時金の引上げ
- ・不妊治療費の支給等
- ・労働条件の改善

- 二、企業が行うべき対応
- ・育児休業制度の職場意識の改革
- ・再雇用の積極的実施と保証
- ・企業内保育施設の充実
- ・雇用主の女性雇用に対する意識改革

- ・労働時間、週休、年休の完全実施
- 三、社会的意識改革を必要とする対応
- ・出産育児の社会性を高め、女性が安心して出産し夫婦共同で育児の出来る環境整備
- ・多産家系の支援対策
- ・若者の結婚観の変化に注目し、家庭教育、社会教育を行う体制を支援
- ・祖父母の育児支援の働きかけ
- ・休暇の有効利用によりゆとりある生活を
- ・男女共同参画社会の構築

「光陰矢の如し」と申しますが、済生学舎出身の前田園子先生や吉岡彌生先生らによって1902年に設立された日本女医会が、早や100周年を迎えようとしております。

これまでに日本女医史を1962年に、日本女医史(追補)を1991年に日本女医会が発行し、女医の歴史を窺い知る上で貴重な資料になっておりますが、日本女医会の歴史そのものにはありません。また、他の節目の年にも記念行事は行われた記録がありませんので、せめて100周年には何か記念として残したいとの考えの基に、1999年1月24日、第1回目の100周年記念事業準備委員会を開催いたしました。

ましたのは、下記の通りです。

①記念式典・祝賀会日時… 2002年5月19日(日) 5月18日(土)に評議員会・総会を開催する。2002年は役員改選年ではないが、評議員会・総会は東京で行う。

②会場は五〇〇名の出席者を仮定して選定する。出来るだけ早期に仮定することが望ましい。

③日本女医会のロゴマークを作製

2002年には現在の執行部とはメンバーが替わる可能性がありますが、そのときには、現執行部も参加して記念事業を遂行することを約束いたしました。

日本女医会ゴルフ懇親会へのお誘い

ご存知でしょうか。私ども有志が集まり、年1回、総会開催時に親睦を兼ねた楽しいゴルフコンペを開いております。今回は北海道が会場です。ゴルフのために北海道へ行く機会もなかなかありませんので楽しみにしております。全国のゴルフ愛好家の皆様！ぜひあの雄大な草原でプレイをご一緒しませんか。キタキツネも歓迎に出てきますよ。腕前はドングリの背くらべです。多数のご参加をお待ち致しております。第1回 武蔵ヶ丘CC 96.5/23 幹事石原 第2回 " 97.11/15 幹事犬竹 第3回 武蔵GC 98.11/19 幹事田中 第4回 千歳CC 99.5/23 幹事石原 出場希望の方は一応事務局までお申し込みください。(人数確認のため) (石原幸子)

第44回日本女医会定時総会のご案内

- ◇開催日 平成11年5月22日(土)
- ◇会場 ロイトン札幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西11丁目
Tel: 011-271-2711 Fax: 011-207-3344
- ◇受付 8:00~13:00 2Fエレベーター前
- ◇評議員会 9:00~12:00 昼食(12:00~12:50)
- ◇総会 13:00~15:00
- ◇休憩 15:00~15:20
- ◇公開講演会 15:20~16:50
演題 「環境化学物質の人へのリスク評価の現状と課題」
講師 北海道大学医学部公衆衛生学教室教授 岸 玲子先生
- ◇懇親会 18:30~20:30 会費 15,000円

【宿泊】 ロイトン札幌 (JR札幌駅南口よりタクシーで5分)
1泊シングル 13,650円 (ツインルームをお一人でご利用)
1泊ツイン 11,550円 (ツインルームをお二人でご利用)
上記料金には税金、サービス料、朝食が含まれております。

【支部行事】

- 5月21日(金) <札幌ビール園> JR札幌駅北口よりタクシーで5分
受付17:00~
 - ・渡辺淳一先生講演会 18:00~19:30 ポプラ館
 - ・前夜祭(会費10,000円) 19:30~21:30 スターホール
- 5月22日(土) <ロイトン札幌>
 - ・北海道物産店
 - ・10歳若返るお化粧講座 9:00~13:00
 - ・荻野吟子パネル展
 - ・「荻野吟子シンポジウム」ビデオ上映 9:30~11:30
 - ・母性保護委員会報告 16:50~17:20
 - ・北海道支部40周年記念式典 17:30~18:00
 - ・ロシアンショー鑑賞(会費3,000円) 21:00~22:30
 送迎バス ロイトン札幌発20:45発 <国際ホテル札幌>へ
- 5月23日(日)
 - 1) ゴルフ: 千歳カントリークラブ(お申し込みは別となります)
問合先: 三谷桂子(勤Tel & Fax: 011-851-4453 自Tel: 011-852-1398)
 - 2) 旅行(5月23日出発)
 - ・小樽半日コース (参加費11,000円)
 - ・道南コース 5月23日(日)~5月24日(月) (参加費39,000円)
 - ・道東コース 5月23日(日)~5月25日(火) (参加費63,000円)

【申し込み受付代行】 (社) 日本女医会 北海道支部総会準備委員会
(株) 京王観光札幌支店 担当: 榎原
住所: 〒064-0820 札幌市中央区大通り西7丁目 北海道酒造会館3F
Tel: 011-241-6501 Fax: 011-222-3829
(飛行機などの申し込みも受け付けています。)

*** (社) 日本女医会 北海道支部総会準備委員会代表 斯波憲子

<追加申し込みも可能です>

支部だより

この二度にわたる遺言のすすめから二十数年経った平成の今日までに、数百万円から一億円に及ぶ大金が生存中の同窓生、あるいはご遺族から寄せられて総額既に二億四千八百万円に達している由です。
(追記)

本書は数を限定された自費出版で余冊僅少で、市場には出ておらず、ご希望があっても入手困難です。たつてご希望の方はご面倒ながら、国立国会図書館、日本女医会、関西医科大学図書館、関西医科大学同窓会に少数量備してありますので、借覧下さい。

日本女医会総会を担当するにあたり

ネルギー、パワーを会の活性化のため、ぜひとも注入していただきたいと切に願っております。
1月19日の夜は、ご参加のお若い先生方と一緒にディナーを賞味し、ゲームを楽しみ、お話しし合い大変有意義な楽しい会でした。

しかしご参加の大方の先生方が、日本女医会をご存知なかったことは大きなおどろきでございました。PRの必要さを感じました。支部連合会の今年の新年会をご報告させていただきます。

もしもお天気が悪かったり、外に出るのが面倒な方は、ホテル内でお肌のお手入れや、荻野吟子展、物産展などをご覧ください。
総会の後、午後3時20分からは北海道大学医学部で初めて女性の教授になられた岸玲子先生による今話題の環境ホルモンのお話です。最新の知見を解りやすくお話ししてください。引き続いて本道における女医の就労環境調査の発表をいたします。これは北海道女性活動推進事業の一つとして北海道の補助金を受けております。

「一つの試み」

東京都支部連合会会長 斎藤 歌子

今年もまた、恒例の支部連合会の新年会、新旧役員懇親会を1月19日、霞ヶ関の東京会館で開きました。

長橋本葉子先生には、残念ながら所用でご欠席でございましたが、ご芳志を頂戴いたしました。厚くお礼申し上げます。

4月とはいえ北海道は桜の蕾もまだ固く冷え冷えとしておりますが、皆さまにはご健勝にお過ごしのことと存じます。

対象としてセミ・クロズドで行いますのでアット・ホームな雰囲気のもとでゆっくりお話が聴けることとしよう。現在皆さまのご質問を集めております。その後会場をかねて北海道らしさに溢れた大きな赤レンガの壁、厚い木の机と椅子のスターホテルで楽しいアトラクションとともに、ワインやビール、蟹はじめ北海道の味覚を存分にお楽しみください。札幌ビール園はJR札幌駅北口からタクシーで五分です。

1999年は本支部創立四十周年にあたるため本部のご了解を得、記念式典を執り行わせていただきます。歴代支部長に感謝状の贈呈と地域功労者、支部功労者の表彰をいたします。皆さまのご列席を賜われれば幸いです。

今年の会には、副会長、役員の方生方のご提案とご尽力で、東京都内の二、三の大学、病院の医局の若い女医先生方にお声をかけ、会にご招待することになりました。二十名余の先生方がご参加になり、会は清新な雰囲気、活気のある会になりました。

日本女医会、全国の女医を大きく一つにまとめる大事な会であること、会員が、日進月歩の医学の進歩に、少しでも追いついてゆかれるよう、また二十一世紀にむけての社会情勢、医療情勢に対処してゆかれるよう、会の執行部は、会員のための研修会を心がけ、企画され、私どもも勉強させていただいております。

さて残すところ後二十日余りで今年度の日本女医会総会が札幌で開かれます。5月21、22日ごろの札幌は、春の訪れが遅ければまだ桜が咲いており、もし好天に恵まれれば、皆様のお泊りになるロイトン札幌の前の大通り公園に白や薄紫のライラックの花が咲きほころび、甘く爽やかな香りがただようころとなります。

22日は一般会員のかたは午前中に大通り公園や植物園、道庁の散策はいかがでしょう。例年この時期に道庁の池にビル街で生まれたマガモの引越しがあります。円山動物園も車で五分です。サル山の日本ザルの軍団は、いつまで見ても飽きません。札幌の歴史に興味のある方は郷土資料館が徒歩三分のところにあります。

懇親会は来賓等のご挨拶は短くしていただき、交流する時間を多くとりたいと考えております。北海道らしいアトラクションを用意しておりますのでご期待ください。
今回は二次会も設定いたしました。会場を移してロシアンショウの観賞です。ロシアの美男美女による歌、踊り、奇術、アクロバットなどのショウを軽いお飲み物とともにぜひともお楽しみください。バスは8時45分にホテルを出発いたします。
翌日から道南、道東、小樽の旅行を計画しております。それぞれ充実した内容で企画いたしました。

当日は夕方よりみぞれまじりの雪空で、寒い晩でございましたが、日本女医会名誉会長三神先生、連合会顧問前連合会長今野信子先生、東邦大学名誉理事長柴田洋子先生他、日本女医会副会長石原幸子先生にもご出席いただき、日本女医会についてのPRをお願い申しあげました。会

この会はまた会員の交流の場でもあり、相互扶助の場でもあり、私たちが医師として生活してゆくうえでの心の支えの会であり、大きな後援であることを、若い先生方にご理解いただけたらと思います。またお若い先生方の新しい視点での考え、エ

北海道の日本女医会員は現在六〇余名ですが、約三〇〇名の北海道女医会員の協力を受け、渡辺幸枝副支部長のもと、一丸となり皆様をお迎えする準備をしております。

21日の前夜祭は札幌ビール園で渡辺淳一先生の講演会をもって始まります。本会会員また道内医師会員を

対象としてセミ・クロズドで行いますのでアット・ホームな雰囲気のもとでゆっくりお話が聴けることとしよう。現在皆さまのご質問を集めております。その後会場をかねて北海道らしさに溢れた大きな赤レンガの壁、厚い木の机と椅子のスターホテルで楽しいアトラクションとともに、ワインやビール、蟹はじめ北海道の味覚を存分にお楽しみください。札幌ビール園はJR札幌駅北口からタクシーで五分です。

最小催行人数は二五名で、達しなれば残念ながら中止となりますのでご了承ください。

私たちは札幌総会のイメージカラーをライラック色とし、支部会員は胸にライラック色をメインとした虹色のコーサージュをつけております。会場どうぞお気軽にお声をかけてください。

例年に比べて盛りだくさんでお疲れになるかもしれませんが北海道支部会員一同心をこめてお待ちしております。一人でも多くの方の参加を期待しております。

理事会議事録

日時：平成11年1月23日(土) 午後3時より

場所：京王プラザホテル

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、大澤、大坪、栗原、佐々木、澤口、鹿田、清水、田中、西嶋、久田、平敷、松井、松本、丸茂、宮原、村田、吉崎、中濱、野澤 (以上23名) 欠席者：青井、川田、佐藤 (以上3名)

橋本会長より新年の挨拶 12月理事会の議事録を承認。

報告事項

一、庶務報告 清水理事

別紙どおり報告、承認

二、会計報告 栗原理事

平成10年12月分収支別紙通り報告

承認。また現在までの会費納入状況の説明があった。 三、各部報告

【事業部】 久田理事 *千葉県で2月11日開催の公開講演会は順調に準備が整う。多数の理事の参加を要請。

【広報部】 村田理事 *第17号会誌の校正会議を1月14日に開催。発送は28日以降になる。 【学術部】 平敷理事 *2月27日に学術講演会を開催。

協議事項 一、平成11年度事業計画案および予算案の件

・庶務部 今年度同様、ブロック別懇談会開催を計画
・事業部 公開講演会を埼玉県支部と愛知県支部で開催予定。
・渉外部 前年度と同様。
・広報部 支部の声を反映するよう、に極力努力する。

情報提供(ソント、ソロブチミストからの助成等)も記載する。
・学術部 計画及び予算は前年度と同様。
との希望があった。
・会計部より
今年度の収入は「会費収入、年金手数料、各種利息」の減額により、「名簿広告料、荻野吟子観劇券販売」での増額にも拘わらず、昨年比約三七〇万円の減収。支出は各部署努力で約六〇〇万円減。来年度は会費収入で一〇〇万円減、年金手数料で半額減の子測であり、来年度予算は今年

より10%減の三、五〇〇万円くらいになる見込み。それを踏まえて各部にもう一度検討を要請。

①会誌に広告掲載 あまりメリットがないとの見方もあり、再調査する。

②総会時のバザー開催 毎回実施できるよう、理事はじめ総会開催支部の協力を求める。 また、出店希望の業者も募る。

二、各賞選考の件 *吉岡彌生賞 「医学に貢献した部門」

「社会に貢献した部門」 宮川幸子氏(奈良県支部) 久保田くら氏(東女医学内支部) *荻野吟子賞 須藤昭子氏

*学術研究助成 水田祥代氏(福岡県支部) 奥谷文乃氏(高知県支部) 三、第44回定時総会(於北海道)の件 計画中のイベントを発表。多数の理事の出席の要請。

四、2004年国際女医会議の件 *企画依頼書(案)を検討する。 北海道、横浜、大阪、神戸、広島、福岡各コンベンションに送付し、3月と4月の理事会時にプレゼンテーションを願う。

国際会議の開催時期は5月中旬より6月にかけてとの希望が多かった。開催地の支部は人材のみ協力という事で再確認。

五、第2回ブロック別懇談会の件 候補地として、次々回総会開催地の近くまたは神戸が挙げられ、時期としては6月終わり〜7月との提案があり、他に候補地等を検討した。

ワークショップ、講演会と同時にしてはとの意見も出され、庶務部で具体的な案を作成し、次回理事会で再検討する。

六、その他 *MWIA副会長(西太平洋地域担当) Dr. Maxwellが来日するので、4月1日(木)東京シティークラブで4時より懇談会を持つ。都支部連合会と関東近郊支部長にFAXで連絡し、多数の参加を募ることに決定。

・韓国での西太平洋地域会議が中止されたのに伴い、各国の会長、ナショナルコーディネーターの会議開催の希望がある。Dr. Maxwellとの懇談会で開催地などを話し合うことに決定。

また、日本からのMWIAへの要望をも検討する。
・医学会総会で女医会責任のもと、託児所が開設される旨の報告があった。

以上 副会長(庶務部担当) 橋川 鹿田、清水、宮原

会員動静(敬称略)

入会者

長瀬 早苗(昭44年卒) 都下西
玉井 浩子(昭61年卒) 愛知

退会者 三名

集記 編後

この一年は、気象的には空怖ろしくも四季のめりはり足りないままに明け暮れたが、こと女医会にとってはまさにエポックメイキング。周知の経緯で医師会中枢に入られた理事たち、男女共同参画推進、日本女医会一〇〇周年記念事業、国際女医会議日本誘致運動等に奔走する理事たち、と理事会は従来のペースを遙かに超えて大忙しである。当会の女医の労働環境整備活動も始動した。未だ総論的段階であるが、近々各論の段階に移る筈で、これには全会員、とくに若手の意見が十分反映されねばならぬ。

今年度札幌総会が、大きなスケールを予感させながら目前に迫ってきた。多数の会員にご参加いただき、当会の今の立場、それに伴う熱気等直かにお感じ取りいただき、これに呼応してさまざまなご意見を賜りたいものである。(佐々木)

日本女医会誌 第158号

平成11年4月25日 発行

編集人 大坪 公子
発行人 橋本 葉子
制作 (株)金剛出版

発行所 社団法人 日本女医会

東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル 電話 03-3498-0571
〒150-0002 FAX 03-3498-8769